

190人が竹林を整備

呉羽できんたろう倶楽部

市民ボランティアによる竹林整備「写真」は22日、富山市ファミリーパークに隣接する呉羽丘陵内の「きんたろうの森」で行われ、約190人が作業に汗を流した。

市内で里山再生に取り組む「きんたろう倶楽部」が毎年4月に実施している。開会式では、鶴森定信理事長が「体調に気を付け、里山整備を楽しんでほしい」とあいさつした。



青空が広がり、汗ばむ陽気の中、参加者は14班に分かれ、のこぎりを手にも「倒しやすよ」と大声で呼び掛け合いながら、生い茂った竹を伐採した。同倶楽部の会員や富山造園業協同組合の組合員ら約40人が注意点を指導した。

伐採が一段落すると、ボランティアはのこぎりをくわに持ち

富山新聞 平成30年4月23日(月)

替え、タケノコ掘りを楽しんだ。参加した富山市西部中2年の長田晴飛さんは「竹が思うように切れなく

て大変だったが、きれいになってうれしい。来年も参加したい」と笑顔で話した。伐採した竹は会員がチップ状に加工して森にまく。



のこぎりでの竹を切り倒す参加者

190人 善意の竹林整備

きんたろう倶楽部 呉羽丘陵で汗

富山 里山再生に取り組む富山市のNPO法人「きんたろう倶楽部」(鶴森定信理事長)は22日、富山市ファミリーパークに隣接する呉羽丘陵の竹林を整備した。毎年春にボランティアを募って実施し、今回で19回目。富山造園業協同組合の組合員ら190人が参加した。集合場所で鶴森理事長があいさつし、全員で準備運動をした後、竹林へ移動した。14班に分かれ、それぞれの持ち場を決めて取り組んだ。参加者は担当者から説明を

聞き、のこぎりを手にも竹や雑木を次々と切り倒した。声を掛け合いながら竹を手際よく運び、汗を流していた。切った竹は機械で細かく切断し、チップにするという。

北日本新聞 平成30年4月23日(月)